

特別支援教育におけるICT利活用 インクルーシブ教育に向けて何をすべきか？

東京大学先端科学技術研究センター
バリアフリー系 人間支援工学分野

中邑 賢龍

kenryu@bfp.rcast.u-tokyo.ac.jp

魔法のワンドプロジェクトは何を目指す？

これまでのプロジェクト

2010-11年度	ポケット・筆箱	新しい能力を示す
2012年度	じゅうたん	外に持ち出しリアリティある教育を
2013年度	ランプ	社会参加のツールへ
2014年度	ワンド(杖)	インクルーシブ教育へ

杖を一振りしても何も変わらない??

特別支援教育の呪縛を解くためのワンド

インクルーシブ教育の時代

2014年1月 国連の障害者権利条約への批准
2013年 障害者差別解消法

どのように障害のある子どもを抱えていくかが課題
障害認定がなくても困難を抱える子どもも多い

生きにくい・不公平な時代

産業構造の変化が産む生きにくさ

第1次産業の比率の低下（約5%）

第2次産業の形態変化（約25%）ロボット化

第3次産業が増大（約70%）

働くための読み書き・コミュニケーション能力が求められる → **そもそもスタートラインが違う**

不公平感の増大

がんばる間に勉強が遅れる

治療教育では間に合わない

適応出来なければみんな障害と認定する ？

そもそも障害とは何か？

WHOの国際障害分類

1980 **ICIDH** (International Classification of Impairment, Disability, and Handicap)

障害の階層モデル

Handicap (社会的不利)

|

Disability (能力障害)

|

Impairment (機能形態障害)

2001 年に国際生活機能分類へ

ICF (International Classification of Functioning, Disability and Health)

- 環境要因・個人要因の障害への影響を考慮
- 障害には身体機能構造の障害と活動・参加の制限がある



誰もが持ちうる状態としての障害

バリアフリーや
ユニバーサルデザイン(UD)を後押し

身の回りにおけるテクノロジー(アルテク) で困難さを補える時代

- 身の回りにおけるテクノロジーの活用で学習支援
パソコン、携帯電話、タブレットPC
ICレコーダ、デジカメ、ヘッドフォンなど
- 従来の専用機器の機能が一般製品でカバー
- 特定の子どもだけではなく誰もが活用できる
- 個人の学用品へ

学習に困難を抱える子どものためのAT

- 読み 電子図書、読み上げソフト、拡大ソフト、ルビソフト、辞書
- 書き ワードプロ、デジカメ、ICレコーダ
- 計算 電卓、電子マネー
- 記憶 デジカメ、ICレコーダ、
- 思考 マインドマップ
- 見通し スケジューラ、タイマー
- 感覚 ノイズキャンセリングヘッドフォン、サングラス
- 注意 リマインダー、ノイズキャンセリングヘッドフォン
- ナビゲーション GPS
- コミュニケーション 電子メール・デジカメ・ICレコーダ
- 学校 インターネット／オンライン教材

★これらを普通級の中の学習の遅れた子ども達に使えるか？ NO

★普通級で学ぶ障害のある子ども達に使えるか？ ?

新しい能力であるICTに戸惑う時代

家族・教師・セラピストの不安

- ・テクノロジーなしでも出来る
- ・テクノロジーに依存してはいけない
- ・社会では認められないのでは・・・
- ・一斉指導にはなじめない
- ・不公平感が生まれる

ATは特別支援学校では使えるが、小中学校では認められず
インクルージョンされない方が自由に使える？
学習困難な子どもは障害認定をうけるべき？

一斉指導の呪縛から抜け出せない 小中学校の教育

- ★障害を克服し誰もが同じように出来る事にこだわる
セラピストや教師が多いため自立や学習に遅れが・・・
- ★同じことを求められて自信喪失・将来へ絶望
- ★出来ないので依存するしかない(受身的生活)
⇒ インクルーシブ教育の問題点
テクノロジーでスタートを揃えない統合は負担大
- ★出来すぎる子どもも同じペースで学習を求められる
⇒ 出来すぎる子どもの不適應
加速学習やICTを活用した個別の学習補償の必要性

適応出来ない子ども達の増加

- 授業中好き勝手な事をして集団に入れない
- 自分の興味関心のあることしかやろうとしない
- 落ち着きが無く常にきょろきょろしている
- 能力は高いが字が書けない
- コミュニケーションがうまく出来ない
- こだわりが強い
- 融通が利かない ⇒ 学ぶ場の少なさ

約11万人の小中学生が不登校(約1%)

異才発掘プロジェクト ROCKET

(Room Of Children with Kokorozashi and Extraordinary Talents)

★イノベーションを期待する声

オールマイティで協調性のある人材養成を行う点では
優れた日本の教育システム

⇒ イノベーションの起きにくさ

★突き抜けた子ども達の凸の部分伸ばす教育の欠如

★教科書では満足できない子ども達

★不登校になると学べる環境が激減

⇒ フリースクールや適応指導教室では満足できない子ども

新しい学びの場としてのROCKET

旧来の障害観の呪縛から抜け出せない 特別支援教育

★障害の過度な美化

★優しく接しようとする教師の姿勢 過剰な配慮
(非合理的配慮)

★先生がカバーすることで生じる受身的生活

★特別支援教育のルートに入るとなかなか普通教育に戻れない

配慮のような いじめ？差別？おせっかい？

- 小中学校で障害があり出来ない子どもを励まし無理に頑張らせる(いじめ？)
- 子どものためだと考え、書けない子どものワープロ利用を認めない(差別？)
- 手動車椅子で移動する子どもを押す(おせっかい？)

インクルーシブ教育の中で 特別支援教育はハブとなる

- これからは教育の中において重要な役割
 - 多様性を理解した教師
 - 支援技術でスタートラインを揃えることが可能に
 - 特別支援の指導技術・コミュニケーション技術
- すべての子を統合して同じ場で学ばせる事が必要？

集団に入れなくて悩む人もいる

- 集団に入れなくても学べればいい
- 自分で仕事を創ればいい
- 少人数で結び付けばいい

→ ICTを活用すれば十分可能

学校に行かなくても学べるシステム

Mooc (<http://www.jmooc.jp/>)

オンライン学習・通信教材

多様性を理解できない社会

- 同じである方が効率が良い
- 同じである方が安全安心

集団で学べる事が前提

凸凹のある人は排除

協調性の無い人は排除

教育の多様化が社会を変える

多様性を認める社会が 誰にとっても生きやすい社会を生み出す

- オールマイティも1つの個性
 - 凹な人も、凸な人も個性
- しかし、今は凹でも凸でも進路が少なく挫折しやすい社会

ICTでマイノリティを
積極的に取り込んだ多様な教育が
生み出すダイバーシティ社会

そこからイノベーションが生まれる